

私は、8月5日と6日に「非核平和学習会」に参加し、広島に行きました。たくさんの方々が核兵器をなくすように訴えているのに、なぜまだたくさん核兵器が作られるのかと、私は疑問に思います。数秒で奪われた命がかわいそうでたまりません。私が行った広島は、豪雨などで大きな被害もありました。でもそれは、自然災害です。戦争は、人間の手で起こされたものです。だから戦争は、防げるはずですよ。また、被害にあわれた方々が少なくなくなってきているので、広島に行ったことのない方にはもちろん、次の世代へと平和のよきと戦争のこわさを伝え、広島のことを忘れないうようにしていきたいです。



矢沢小5年 佐々木 覇奈 さん



矢沢小5年 菊池 玄 さん



湯口小6年 高橋 一磨 さん



花巻小5年 晴山 莉衣 さん



八幡小6年 佐々木 かえら さん

原子爆弾は一瞬にして、尊い人の命も大切な広島町まで、全て破壊するものだと知りました。平和記念式典では、被爆者の二度と地獄は見たくないという声と、ノーモアヒロシマナガサキという言葉が聞きました。そして、平和への誓いがされました。これは誓いの一部です。「昭和20年8月6日、あの日から、血でまみれた川、がれきの山、皮ふがはがれた人、たくさん死体。これは大好きな町の悲惨な過去です」ぼくは、あらためて、全世界から核爆弾、原子爆弾をなくしたいと思いました。

僕が今回、非核平和学習会に参加した動機として、戦争は、人間が起こしてしまう非常に残酷な行為であり、それを事前に防ぐにはどうしたらいいのかということを実際に広島に行き、学びたかったからです。平和記念式典の中で、子ども代表の6年生の2人が「ありがとう。」や「ごめんね。」の言葉で認め合い許し合うこと、寄りそい、助け合うこと、相手を理解し、違いを理解しようと努力すること。自分の周りを平和にすることは、私たち子どもにもできることです。」と語っていました。僕は、戦争を防ぐにはどうしたらいいのかという疑問の答えになるのではないかと感じました。今回、非核平和学習会に参加して、このように戦争の悲惨さを多くの人達に伝えていくことが平和につながる方法の一つだと思いました。

私が応募した理由は、戦争はとてもこわいものだと聞いていたけれど、目で見て感じ、どれだけ戦争がこわいことなのか知りたかったからです。私は、広島平和記念資料館へ行き、戦争はどんなにこわいものなのか、どれだけたくさんの方がまきこまれ、命を落としたのかを見てきました。こわすぎて目をそらしてしまう写真もありました。もしまたあのような戦争が始まってしまったら、どうなるのだろう、と思いました。私は、核戦争のない平和な世界にするために、今、被爆者ほどのような思いでいるか考え、許し合い、相手を理解しようと努めたいと思います。

広島平和記念資料館で、同じ年くらいの子どもの服とその子どもの名前を見た時に、とてもこわくて、つらかったらうと思いましたが、戦争がなければ、このような悲惨なことが起こらなかったらうと思えました。広島市の悲惨な過去を忘れることなく、私の家族や友達、次の世代や世界の人々に伝えていくこと、また、この学習会で学んできたことや、感じたことを伝えていきたいと思いました。そして、戦争や核兵器で苦しむ人がなくなるような平和な世の中をつくらなければいけないと思いました。

非核平和学習会

8月5日・6日の2日間、市内小学校から9人を広島市に派遣しました。平和記念資料館や平和記念公園の見学、平和記念式典への参列を通して、非核平和への思いを新たにしました。

※掲載している感想は、この学習会に参加した児童が書いた感想文の抜粋（原文ママ）です。全文は文集に取りまとめ本館総務課に備え付けているほか、市ホームページに掲載しています



たくさん捧げられている折り鶴を見学する子どもたち



花巻小5年 佐藤 清美 さん

参加したいと思った理由は、原爆ドームを見てみたかったこと、平和の尊さを感じてみたかったからです。広島平和記念資料館では、原子爆弾のレプリカや、水を求めている人たちの絵、放射線で髪の毛が抜けたり、歯ぐきから血を出していたり：と放射線の影響はわかり知れなくて、わたしたちは、平和に暮らさずして、戦争の悲惨さが友達などとはわかっていないと思うので、今一度友達や家族にも教えようと確信しました。この学習会に参加してよかったです。なぜかというと、実際にこの目で戦争の悲惨さなどを体感できたからです。なので、今わたしたちが住んでいる世界はもっと平和になってほしいし、たくさんの人達にもこのつらさや、戦争の悲惨さを実感してもらいたいなと思いました。



笹間第二小6年 鈴木 聖悠 さん

参加する前、平和に対して不安がなく生活していましたが、しかし、参加するにあたり核兵器や戦争で一瞬にして平和な生活が壊されることを知りました。そして、実際に自分の目で見て学習したいと思いました。資料館では、破れた服や亡くなった人の写真など想像できない展示物がたくさんありました。一瞬でこのような状況にしてしまう核兵器のおそろしさを知ることができました。僕の周りには、戦争を体験した人がいません。ますます悲惨な出来事を語り継ぐことができなくなると思います。今回、学んできたことを家族や友達、周りの人達に伝え、平和な生活が続くように願っていききたいと思っています。



若葉小5年 熊谷 湊太 さん

資料館には、実際に着ていた服や使われていた三輪車が展示してありましたが、それを見た時あまりにもボロボロすぎて、一つの原子爆弾でこんな風になってしまうことにびっくりして、言葉が出ませんでした。また、傷ついた人々の写真の展示も印象的でした。放射線で体に斑点ができた人や、熱風で体に大きなやけどを負った人の写真を目にして、これが本当に日本で起こったことなのかと信じられませんでした。この二日間は、自分の命があることに感謝して、平和について考え、平和と向き合うことができませんでした。ぼくにとっても忘れられない二日間でした。



矢沢小6年 菅原 胡子 さん

私は、原爆が落とされたことは知っていたけれど、あまり戦争のことは知りませんでした。だから、実際に自分の目や耳で戦争の怖さや悲惨さを感じ取り、平和の大切さについて知ることができたため、今回「非核平和学習会」に参加しました。何の罪もない多くの人の命を奪う戦争は、悲しみしか生みません。二度と争い事のない平和な世界になって欲しいです。そのためにも、私は、自分の意見をしっかりと持ちつつも、相手の意見を尊重することを忘れずにいる心を大切にしたいです。